

# 田島支援学校版(国語)

小学部・中学部・高等部 学習段階表

令和4年 12月発行(第2版)

川崎市立田島支援学校

---

国語(言葉の特徴) 学習段階表

項目	小学部			項目	中学部			項目	高等部	
	1段階 内容	2段階 内容	3段階 内容		1段階 内容	2段階 内容	1段階 内容		2段階 内容	
言葉の働き	(7) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。	(7) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。	(7) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付く。	言葉の働き	(7) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、物事の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。	(7) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	言葉の働き	(7) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	(7) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手のつながりをつくる働きがあることに気付く。	
学習内容	【話し掛けに慣れる】 - 教員の話しかけや呼名に応じる。また、音声言語やスイッチ教材など言葉を使うことで相手の反応に変化があることに気づく。 【なまえをおぼえよう】 - 見本の文字を見ながら並び替えをし、隠された文字の並び替えをし、マジックペンで名前などの運筆をなぞる。 【どこにある?】 - 教員の音声言語を聞いて、場所の写真や色カードを選び、事ができる。	【なんで伝える?】 - 親しみやすい場面を映像や写真を取り上げ、場面に応じた言葉(●●欲しい・怒っている・楽しい・やりたくないなど)や、日常的に使う言葉を発表する。 - 実際の場面を想定してロールプレイを行う。 - 終了課題(おたのしみ)の中でやりたいことを選び自然と伝える学習をする。	【状況や伝え合おう】 - 学んだ経験等の動画を視聴し、教師の問いかけに対し、伝えたい事柄を考え発表する。 【アニメや本を説明しよう】 - アニメや本(読み聞かせ)を見て(はじめ・なか・おわり)簡単に内容を伝える。	【作品をしようか!】 - 自分が作った作品を作る過程で経験した事実や自分の気持ち、意見などを相手に伝えることを意識して伝えたい事柄を順序立てて発表する。 - 自分の伝えたいことを整理して伝え、相手に共感してもらったり認めてもらうことで伝えることのよさを実感できるようにする。 【ことばの学習】 - 写真やイラストで身近なものの名前や動作の言葉や学習する。	言葉の働き	【作品をしようか!】 - 自分が作った作品を作る過程で経験した事実や自分の気持ち、意見などを相手に伝えることを意識して伝えたい事柄を順序立てて発表する。 - 自分の伝えたいことを整理して伝え、相手に共感してもらったり認めてもらうことで伝えることのよさを実感できるようにする。 【ことばの学習】 - 写真やイラストで身近なものの名前や動作の言葉や学習する。	【みんなにつなごう】 - 学校の集会(生徒会、クラブ集会など)で発表をする。 - 伝えるときには、「伝えたい事の明確化」「伝える順序」「伝え方」「分かりやすい伝え工夫」が大切であることをポイントとして学習を進める。	言葉の働き	【聞く態度「話す態度」】 - 「私の名前を漢字で書くよ」を発表 - 「働く人にインタビューしよう」 - 校長(教頭)、養護教諭、事務員、用務員に仕事内容、大変なこと、仕事の手、みんなに協力してほしいこと、などについてインタビューする。	【敬語で話そう】 - ワークシート(前回の面接を再現「生徒と先生」のあと)生徒と生徒で実践をする 【チェック言葉とフワフワ言葉】 - 同じ内容の会話をチェック言葉とフワフワ言葉で表現する。相手の会話をどのように受け取ったか話し合う。
話し言葉と書き言葉			(4) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。 【自己紹介しよう】 - 挨拶や自己紹介において自分の映像を見て振り返ったり、児童同士で評価し合う活動を取り入れたりすること。	話し言葉と書き言葉	(4) 発音や声の大きさに気を付けて話すこと。 【自分の夢を話そう】 - お互いの夢について発表する。 - 適切な声の大きさを理解することが難しい生徒には、声の大きさを図や数値化し、声の大きさについて具体的に伝える。	(4) 発音や発音に気を付けて話し、声の大きさを調節したりして話すこと。 【夢を話そう】 - 漢字探しプリント - 自己紹介プリント(宿題)を合格・残念チームに分ける - 合格グループはチーム内発表(声の大きさと前回の注意点を生かす) - 残念チームは設問の意味など分からないことを教員と話す	話し言葉と書き言葉	(4) 相手の声を見て話したり聞いたりするともに、間の取り方などに注意して話すこと。 【スピーチ対決】 - 「アン・シマンのマーチ」の歌詞を相手に訴えかけるように朗読する。 - 「わすれないで夢を…」などの特に相手に伝えたい部分に強調をつけて話したり、相手の目を見て伝えたりするとより気持ちが伝わりやすいことを伝える。	(4) 話し言葉と書き言葉に違いがあることに気付くこと。 【伝言ゲーム】 - 紙に書かれた文字を写し取って伝言するチームと、耳で聞いた文章を口頭で伝言するチームで対決する。 - 伝言終了の時間や伝言内容の適切さを比較し、話し言葉と書き言葉の役割やメリット・デメリットを考え、どの場面を使い分けられるかを考える。	
言葉		(4) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	(7) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	言葉	(7) 長音、拗音、促音、撥音の正しい読み方や書き方を知ること。 【作ってみよう(ペットボトルのかさぐるま)】 - 生活に必要な身近な物の使用法や簡単な作業工程の説明書を読んで大体の使い方や作り方を捉える。 - 説明書には「ペットボトル」「カッター」「ペンチ」「ハンガー」など 長音、拗音、促音、撥音などが含まれる言葉を入れる。	(7) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。 【お礼の手紙を書こう】 - 人との関わりの一つとして手紙があることや手紙がもつ良さについて気付けるようにする。 - 受け取る相手のことを思いやりながら書くために文章表記上間違えやすい長音、拗音、促音、撥音などの使い方を注意しながら書く。 - 事前に関連しやすい長音、拗音、促音、撥音などについて例などを掲示し、確認をする。	言葉	(7) 漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解し、文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識して打つこと。 【漢字を使って文章を書こう】 - ひらがなの文章を漢字や句読点を使った文章に書き換える。 例) ははは公園えんいく。 ①母は、公園に行く。 ②母は、講演に行く。 - 句読点を使うと文章が読みやすいことや、漢字によって内容の情報が明確になることを感じる。	(7) 文や文章の中で漢字と仮名を使い分けて書くこと。 【手紙を書こう】 - 相手に読みやすい文章を意識して、句読点や漢字を使った文章を手紙を書く。	
学習内容	【ひらがなをさがそう】 - 自分や友だちの名前、図鑑や絵本に出てくる物や生き物の名前を取り上げ、教師や友達と一緒に声に出して読み、平仮名の持つ音節文字としての特徴や、濁音と半濁音の違い、文字の形の特徴などに気づく。また、音節に気づくためにひらがなブロックを使い同じように単語を構成する。 【教科の名前の並び替えしよう】 - イラストと文字を見て名称を答える。 - 見本の文字を見ながら並び替えをする。 - 一文字隠れた文字の並び替えをする。 - 一文字ずつ声に出して読んで、ひらがなの持つ音節文字としての特徴や文字の形の特徴などに気付く。	【小さい文字と伸びる音】 - 促音(かっば、とらっく、らっく)長音(けいさつ、ケーキ、王さま)を取り扱う。ひらがなを読んで対応するイラストを選ぶ。イラストを見て対応するひらがなカードを選ぶ。 【参考読み物】 でんしゃはうたう 小さいつがみえた日 【カタカナの読み方を知ろう】 - ひらがなの下にカタカナを貼り付けて、カタカナ(ア・カ行)の読み方を理解する。 - 分からない部分はひらがな、カタカナ50音表で確認するようにする。声に出して読み、読み方の確認を行う。		【言葉の意味や仲間言葉】 - 一つの言葉に対しての同義語、類義語、対義語を出し合う。 - 動物の名前や果物の名前などを出し合い言葉のグループを作る。 【言葉のまじり】 - 同音異義語…は(橋)とはし(箸)・あめ(雨)とあめ(輪)など - 対義語…教室に「入る」や教室を「出る」など - 同義語…先生が「話す」と先生が「言う」など - 上位語・下位語…「果物」が上位語の場合、下位語は「もも」など - 語句は日常生活で扱う場面を設定することを大切にすること。 - 上位語と下位語は図書室で図鑑などと関連させながら指導する。	言葉	(4) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。 【言葉の意味や仲間言葉】 - 複数のカードの中から相手に伝えるカードを1枚決める。 - 説明的な短い文を読みながら、「お台場」「厳島神社」などの情景を想像したり中心となる語句に着目しながら話の内容を捉えたりする。 - 分からない語句は図書コーナーやICT機器を活用して調べようとする。	(4) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。 【日本をたびして②】国語☆☆☆☆ P28-31より - 複数のカードの中から相手に伝えるカードを1枚決める。 - 説明的な短い文を読みながら、「お台場」「厳島神社」などの情景を想像したり中心となる語句に着目しながら話の内容を捉えたりする。 - 分からない語句は図書コーナーやICT機器を活用して調べようとする。	言葉	(4) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。 【カード当てゲーム】 - 複数のカードの中から相手に伝えるカードを1枚決める。 - そのカードの情報を1単語で表す。 - 情報を聞いても相手かカードを選べない場合は、もう1単語情報を追加する(相手がカードを選ばずに1つずつ情報を追加する)。 例) ピンクのカエル: 「ピンク」「いきもの」「やわらかい」と「ぶ」「鳴く」「雨が好き」など	(4) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。 【見聞を調べよう】 - テーマに対し、「私は…思います。なぜなら…」などの文章で発表したり、相手の意見に対して「だから賛成です。」「…なので、私は…と考えます。」などの自分の意見を述べる。
学習内容	【言葉に慣れよう】 - 自分が授業で取り組んだことや好きな物をジェスチャー、写真やイラストから選ぶ。提示する際、言葉の音に慣れるために名称を声に出して伝える。自由な表現を認め、言葉での表現の素地を養う。	【これはなにをなにしてる?】 - イラストや写真を見て物の名前(名詞)やなにをしているか(動作用語)の質問に答える。 - 楽しかった経験などから、それぞれの場面で使ったものとその名前を思い浮かべたり、思い浮かべたものを絵や実物などと一緒に一致させたりすることを通して、いろいろな言葉を取り扱うようになる。 【ボールどこかな?】 - 教員と一緒に右手を動かし、動かし方向きとその名称を確認する。		【言葉の意味や仲間言葉】 - 一つの言葉に対しての同義語、類義語、対義語を出し合う。 - 動物の名前や果物の名前などを出し合い言葉のグループを作る。 【言葉のまじり】 - 同音異義語…は(橋)とはし(箸)・あめ(雨)とあめ(輪)など - 対義語…教室に「入る」や教室を「出る」など - 同義語…先生が「話す」と先生が「言う」など - 上位語・下位語…「果物」が上位語の場合、下位語は「もも」など - 語句は日常生活で扱う場面を設定することを大切にすること。 - 上位語と下位語は図書室で図鑑などと関連させながら指導する。	言葉	(4) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 【言葉の意味や仲間言葉】 - 複数のカードの中から相手に伝えるカードを1枚決める。 - 説明的な短い文を読みながら、「お台場」「厳島神社」などの情景を想像したり中心となる語句に着目しながら話の内容を捉えたりする。 - 分からない語句は図書コーナーやICT機器を活用して調べようとする。	(4) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。 【カード当てゲーム】 - 複数のカードの中から相手に伝えるカードを1枚決める。 - そのカードの情報を1単語で表す。 - 情報を聞いても相手かカードを選べない場合は、もう1単語情報を追加する(相手がカードを選ばずに1つずつ情報を追加する)。 例) ピンクのカエル: 「ピンク」「いきもの」「やわらかい」と「ぶ」「鳴く」「雨が好き」など	言葉	(4) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。 【カード当てゲーム】 - 複数のカードの中から相手に伝えるカードを1枚決める。 - そのカードの情報を1単語で表す。 - 情報を聞いても相手かカードを選べない場合は、もう1単語情報を追加する(相手がカードを選ばずに1つずつ情報を追加する)。 例) ピンクのカエル: 「ピンク」「いきもの」「やわらかい」と「ぶ」「鳴く」「雨が好き」など	(4) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。 【見聞を調べよう】 - テーマに対し、「私は…思います。なぜなら…」などの文章で発表したり、相手の意見に対して「だから賛成です。」「…なので、私は…と考えます。」などの自分の意見を述べる。
文や文章			(4) 文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。 【文をつなげよう】 - 身近な事柄を表す絵や写真を見て次の学習を行う。 ①文節ごとに区切ったカードを並び替えて文を作ったり、完成した文を見本にして書いたりする。 ②助詞を抜いた文を読んで当てはまる助詞を考え文を完成させる。 ③主語や述語など、一部が抜けた文に入る語句を考え文を完成させる。 ④文を書き、相互に発表し合う。その際、書いた文を読み、間違いがあれば正せるようにする。	文や文章	(4) 主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。 【主語と述語】 - 「何がどうなる」「だれがどうする」「何はどんなだ」など例を提示して、語句と語句のつながりや主語と述語の関係を考えながら文を作る。 - 主語や述語のまとまりが意識できるようにそれぞれの言葉のまとまりごとにカード書きで並べたり枠で囲って協調したりする。	(4) 修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。 【接続詞で文を】 - 地域の人や下級生に学校の紹介をする。 - 話す内容を考えるときには、理由や事例を付け加えながら伝える。 - 順序や伝え方を工夫して相手に伝わりやすいように指導する。 - この活動を通して、修飾と被修飾の関係や考えた理由などの説明することを意識できるようにする。	文や文章	(4) 接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 【接続詞で文を】 - 4場面の絵を見て、その間に当てはまる適切な接続詞のカードを選ぶ。カードを裏返して同じマークであれば正解。 - 4場面の絵と、選んだ接続詞を使って文章を考え読み上げる。 例) 3段アイスを持った人: アイスが落ちる ⇒ アイスを慎重に運んだ「しかし」落ちてしまった。	(4) 文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。 【起承転結と接続詞を意識して、4場面の絵を並び替えて文章をつくる。】	
学習内容			【文をつなげよう】 - 身近な事柄を表す絵や写真を見て次の学習を行う。 ①文節ごとに区切ったカードを並び替えて文を作ったり、完成した文を見本にして書いたりする。 ②助詞を抜いた文を読んで当てはまる助詞を考え文を完成させる。 ③主語や述語など、一部が抜けた文に入る語句を考え文を完成させる。 ④文を書き、相互に発表し合う。その際、書いた文を読み、間違いがあれば正せるようにする。	文や文章	(4) 主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。 【主語と述語】 - 「何がどうなる」「だれがどうする」「何はどんなだ」など例を提示して、語句と語句のつながりや主語と述語の関係を考えながら文を作る。 - 主語や述語のまとまりが意識できるようにそれぞれの言葉のまとまりごとにカード書きで並べたり枠で囲って協調したりする。	(4) 修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。 【接続詞で文を】 - 地域の人や下級生に学校の紹介をする。 - 話す内容を考えるときには、理由や事例を付け加えながら伝える。 - 順序や伝え方を工夫して相手に伝わりやすいように指導する。 - この活動を通して、修飾と被修飾の関係や考えた理由などの説明することを意識できるようにする。	文や文章	(4) 接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 【接続詞で文を】 - 4場面の絵を見て、その間に当てはまる適切な接続詞のカードを選ぶ。カードを裏返して同じマークであれば正解。 - 4場面の絵と、選んだ接続詞を使って文章を考え読み上げる。 例) 3段アイスを持った人: アイスが落ちる ⇒ アイスを慎重に運んだ「しかし」落ちてしまった。	(4) 文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。 【起承転結と接続詞を意識して、4場面の絵を並び替えて文章をつくる。】	
言葉遣い			(7) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。 【敬語】 - 敬語カルタを作成する(お題を敬語に直したものを紙に書く) - 敬語を読み、敬体に直した札をとる - 敬語を読み、常体の札をとる - コンビニの店員と客の役に分かれ、敬語を使用して会話を進行 【電話を利用しよう】 - 文章を読んで丁寧な言い方に直す - 丁寧な言葉を2グループに分かれて発表しあう - どんな言葉が見つかったか発表し、聞いている側はメモをする	言葉遣い	(7) 敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。 【敬語】 - 相手に応じた言葉遣いの学習 - 校外学習で行った先でお礼を言う。 【言葉遣いの違い】 - お礼状を書く - 日常の場面で教員と友達との言葉遣いの違いを学ぶ。 - 敬語を意識して会話を進行	(7) 日常よく使われる敬語を理解し使うこと。 【敬語】 - TV番組の出演者の会話を聞き、どんな敬語を話しているか知る - 敬語の種類について知る - 丁寧語、尊敬語、謙譲語の使い方を知る - 各自で例文を作成する - イラストの場面に応じた丁寧語の使い方 「お」「ご」をつけた言葉遣い - 場面に応じた敬語の使い方 ⇒ 車で高齢者に席を譲るとき ある場面の会話の間違いを敬語に直す (なさる、いらっしゃる 等) - NHK for school 「お伝と伝じろう〜目上の人と話すとき」を見ながらプリントを記入する - 敬語の種類を知り、正しい文章を考える - プリントを使って敬語の種類と使い方を知る - 電話での敬語の使い方を知る - 敬語カルタをする。丁寧語・尊敬語・謙譲語の語句が書かれたカードを机に広げ、様々な同士のイラストの描かれたカードを一人ずつ引く、イラストに合った敬語のかるたを取る。	言葉遣い	(7) 日常よく使われる敬語を理解し慣れること。 【敬語】 - テレビ番組の出演者の会話を聞き、どんな敬語を話しているか知る - 敬語の種類について知る - 宿題の例文と、「ぶらり途中下車の旅」で使われている敬語を照らし合わせる - ワークシートを使用して、TV番組の人が使っている敬語を考える ⇒ 各場面ごとに相応しい敬語を話そう - 各場面ごとに相応しい敬語を話そう ⇒ 各場面ごとに相応しい敬語を話そう - 電話での会話や各場面を想定したロールプレイを行う - 敬語一覧表を見て丁寧語、尊敬語、謙譲語の違いについて確認する。一覧表を見ながらワークシートに取り組み。 【電話で話そう】 - 常態を敬体に直す - 「を見ながらプリントを記入する」 - 敬語の種類を知り、正しい文章を考える - 教員が電話の見本を見せる - 相手に意識した敬語を使用する - グループに分かれ、お題に沿って電話の会話を進行 - 声の大きさ、口調、姿勢、態度に気を付けて行う		
学習内容			【敬語】 - 敬語カルタを作成する(お題を敬語に直したものを紙に書く) - 敬語を読み、敬体に直した札をとる - 敬語を読み、常体の札をとる - コンビニの店員と客の役に分かれ、敬語を使用して会話を進行 【電話を利用しよう】 - 文章を読んで丁寧な言い方に直す - 丁寧な言葉を2グループに分かれて発表しあう - どんな言葉が見つかったか発表し、聞いている側はメモをする	言葉遣い	(7) 敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。 【敬語】 - 相手に応じた言葉遣いの学習 - 校外学習で行った先でお礼を言う。 【言葉遣いの違い】 - お礼状を書く - 日常の場面で教員と友達との言葉遣いの違いを学ぶ。 - 敬語を意識して会話を進行	(7) 日常よく使われる敬語を理解し使うこと。 【敬語】 - TV番組の出演者の会話を聞き、どんな敬語を話しているか知る - 敬語の種類について知る - 丁寧語、尊敬語、謙譲語の使い方を知る - 各自で例文を作成する - イラストの場面に応じた丁寧語の使い方 「お」「ご」をつけた言葉遣い - 場面に応じた敬語の使い方 ⇒ 車で高齢者に席を譲るとき ある場面の会話の間違いを敬語に直す (なさる、いらっしゃる 等) - NHK for school 「お伝と伝じろう〜目上の人と話すとき」を見ながらプリントを記入する - 敬語の種類を知り、正しい文章を考える - プリントを使って敬語の種類と使い方を知る - 電話での敬語の使い方を知る - 敬語カルタをする。丁寧語・尊敬語・謙譲語の語句が書かれたカードを机に広げ、様々な同士のイラストの描かれたカードを一人ずつ引く、イラストに合った敬語のかるたを取る。	言葉遣い	(7) 日常よく使われる敬語を理解し慣れること。 【敬語】 - テレビ番組の出演者の会話を聞き、どんな敬語を話しているか知る - 敬語の種類について知る - 宿題の例文と、「ぶらり途中下車の旅」で使われている敬語を照らし合わせる - ワークシートを使用して、TV番組の人が使っている敬語を考える ⇒ 各場面ごとに相応しい敬語を話そう - 各場面ごとに相応しい敬語を話そう ⇒ 各場面ごとに相応しい敬語を話そう - 電話での会話や各場面を想定したロールプレイを行う - 敬語一覧表を見て丁寧語、尊敬語、謙譲語の違いについて確認する。一覧表を見ながらワークシートに取り組み。 【電話で話そう】 - 常態を敬体に直す - 「を見ながらプリントを記入する」 - 敬語の種類を知り、正しい文章を考える - 教員が電話の見本を見せる - 相手に意識した敬語を使用する - グループに分かれ、お題に沿って電話の会話を進行 - 声の大きさ、口調、姿勢、態度に気を付けて行う		
音読			(4) 正しい姿勢で音読すること。 【音読しよう】 - 音読姿勢について、文の切れ目を意識して読む事ができるよさに映像を見て確認する。 ○姿勢・腹式呼吸(腹部に手を当ててへこませるように押しながら声を出す)、声の出しやすい姿勢 ○声…明瞭さ、声量(2mほど前の手のひらをかざしてそれに声をぶつけるように読む) ○読み方・聞きやすいように文の切れ目を意識する、音の特徴(しとんと、しくしく)に関心を持って読む	音読	(4) 語のまとまりに気を付けて音読すること。 【わらしべ長者】国語☆☆☆☆ P74より - 行動を表す文や「さらに、さらに」など繰り返しの言葉などをひとまとまりの語として意識して読めるようにする。	(4) 内容の大体を意識しながら音読すること。 【最後のうさぎ】国語☆☆☆☆ P32より - 最初に教科書に描かれている絵を見て、どのような様子か想像しながら音読を聞き、そのあとに音読をする。 - 登場人物の行動や様子などを表す言葉や文、会話文から「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」について話し合い登場人物の気持ちの変化などを大筋で捉えられるようにする。	音読	(4) 文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。 【朗読】 - 短い詩を朗読する。(朗読作品例:『声に出して読みたい日本語 斎藤孝』など) - 聞き手は、朗読者の声の大きさ、抑揚、間のとり方についての評価を行う。	(4) 文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。 【朗読】 - 文章を朗読する。(朗読作品例: 一般社団法人 青空朗読(Web検索)など) - 聞き手は、朗読者の声の大きさ、抑揚、間のとり方についての評価を行う。	
学習内容			(4) 正しい姿勢で音読すること。 【音読しよう】 - 音読姿勢について、文の切れ目を意識して読む事ができるよさに映像を見て確認する。 ○姿勢・腹式呼吸(腹部に手を当ててへこませるように押しながら声を出す)、声の出しやすい姿勢 ○声…明瞭さ、声量(2mほど前の手のひらをかざしてそれに声をぶつけるように読む) ○読み方・聞きやすいように文の切れ目を意識する、音の特徴(しとんと、しくしく)に関心を持って読む	音読	(4) 語のまとまりに気を付けて音読すること。 【わらしべ長者】国語☆☆☆☆ P74より - 行動を表す文や「さらに、さらに」など繰り返しの言葉などをひとまとまりの語として意識して読めるようにする。	(4) 内容の大体を意識しながら音読すること。 【最後のうさぎ】国語☆☆☆☆ P32より - 最初に教科書に描かれている絵を見て、どのような様子か想像しながら音読を聞き、そのあとに音読をする。 - 登場人物の行動や様子などを表す言葉や文、会話文から「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」について話し合い登場人物の気持ちの変化などを大筋で捉えられるようにする。	音読	(4) 文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。 【朗読】 - 短い詩を朗読する。(朗読作品例:『声に出して読みたい日本語 斎藤孝』など) - 聞き手は、朗読者の声の大きさ、抑揚、間のとり方についての評価を行う。	(4) 文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。 【朗読】 - 文章を朗読する。(朗読作品例: 一般社団法人 青空朗読(Web検索)など) - 聞き手は、朗読者の声の大きさ、抑揚、間のとり方についての評価を行う。	

知識及び技能

(1)

言葉の特徴や使い方

言葉の特徴や使い方

国語(情報の扱い方) 学習段階表

知識及び技能

(2)

小学部				中学部				高等部			
項目	1段階 内容	2段階 内容	3段階 内容	項目	1段階 内容	2段階 内容	1段階 内容	2段階 内容			
情報の扱い方	情報と情報の関係		(7) 物事のはじめと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	情報と情報の関係	(7) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	(7) 考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。	情報と情報の関係	(7) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解すること。	(7) 原因と結果など、情報と情報との関係について理解すること。		
	学習内容		【先生がしている】 ・簡単な教員のアニメを見てははじめ、おわりで説明する 例) 先生が走って、転ぶ動画 はじめ-走る/おわり-転ぶ 【短編アニメを見よう】 ・5分程度のアニメを見て、はじめ、(なか)、おわりにまとめる。	学習内容	【伝わりやすくなるように書く】 ・伝えたいことが読んだ人に伝わるように「いつ」「どこで」「何を」「どうしたか」が書かれているかを確認しながら文章を作る。 ・友だちと文章を読み合い、良い所や分かりにくいところなどについて発表しあう。	【自己主張(自分の意見と理由を話す)】 ・同僚と話す時のポイントをワークシートに穴埋めを行う ・ある場面での自分の意見と理由を考え文書で書く 【電話/遅刻の連絡】 ・実習中の遅刻の連絡の練習をする ・定型文に沿って文章を考える ・話し方に気を付けて実際に電話をする 【電話を利用しよう】 ・帰宅報告の定型文を作成する ・グループに分かれて練習する ・内線電話を使用して、帰宅報告の練習をする ・遅刻連絡の仕方の穴埋めを埋めて文章を完成させる ・配役を分けて遅刻の連絡の練習をする ・相手の顔が見えなくて、電話練習を行う・定型文に沿って遅刻の受け答えを行う ・先生役・生徒役・見学に分かれて練習を行う ・先生がいなかった時を想定して受け答えを行う ・内線電話を使用して、欠席連絡を行う	学習内容	【理由と事例】 ・ある一文の文章に対して、「どうして」や「例えば」を考え、発表しあう。 例) アイスが食べたい:「どうして=暑いから、好きだから」「例えば=シャーベット、ソフトクリーム」 【話の中心を探せ】 ・短い文章(留守番電話のメッセージやビジネスメールの内容など)を読み、一番相手に伝えたい内容(中心)に線を引き、発表する。	学習内容	【原因と結果】 ・様々な場面の絵カードから2枚のカードを選び、文章を作る。 (高1段階/知技/A(オ)のカードを使用) 例) 雷(スイッチを押す): 暗い部屋 ⇒ 雷が落ちたので停電した。(スイッチを押したので電気が消えた。)	
	情報の整理		(4) 図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	情報の整理	(4) 必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	(4) 必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	情報の整理	(4) 比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方などを理解し使うこと。	(4) 情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うこと。		
学習内容				学習内容	【自己主張】 ・教員が2人で話し合っている場面を見てメモを取る ・教員が意見と理由を話すのを聞いて、聞き取るを受けて発言する ・会話の文章を聞き、最後の空欄で話す言葉を自分の言葉で考えて発表する ・前の人の発言を受けて話し方を変える	学習内容	【ことわざ(慣用句)カルタ/国語辞典を引く】 ・ことわざ(慣用句)カルタを2チームに分かれて行う ・国語辞典を引いて、ことわざの意味を調べる ・調べた内容をワークシートに記入する ・隣の席の人と自分が調べたことを発表しあう	学習内容	【物語づくり】 ・友だちと相談しながら、6枚の文章カードから4枚のカードを選び、物語になるように順番に並べる(2枚はダミー)。(参考:「おはなしづくりカード」こぐま社)		

知識及び技能

(3)

我が国の言語文化

我が国の言語文化

項目	小学部			項目	中学部		高等部			
	1段階	2段階	3段階		1段階	2段階	1段階	2段階		
伝統的な言語文化	(7) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして楽しむこと。 【表現しよう①】 教師の読み聞かせを聞き、言葉の繰り返しや面白さ、言葉の響きやリズムを感じて楽しむ。 絵本の一場面の中から児童が理解でき動作模倣ができて簡単な動作を模倣して遊ぶ。 ◎大型絵本・紙芝居・ペープサート・仕掛け絵本・絵本・ビデオ等 題材例：『くまさん くまさん』 (音楽の教科書でも扱われているので、関連付けて扱うことも可能)	(7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、真似したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 【表現しよう②】 教師の読み聞かせを見たり聞いたりしている中で、気に入った場面や声を出したり、言葉や動作の模倣をしたりする。 教師の読み聞かせを見たり聞いたりしている中で、決まった台詞ではなく、自分が感じたことを言葉や動作で表現する。 「むかしむかし」などの特徴的な言葉を教師と一緒に読み言葉の響きやリズムに親しむ。 ◎大型絵本・紙芝居・ペープサート・仕掛け絵本・絵本・ビデオ等 題材例：『おじいさんとねずみのおはなし』等	(7) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。 【表現しよう③】 簡単な歌と手遊びや伝承遊びを通して、昔からある伝統的な遊びや言葉の響きやリズムに触れる。 例：『けんけんば』『なべべこめね』『ずいずいづこらば』等 【表現しよう④】 「おむすこころんすんとん」など特徴的でリズムカルなフレーズを、動きを併せて教師と一緒に読み、言葉の響きやリズムに親しむ。 ◎大型絵本・紙芝居・ペープサート・仕掛け絵本・絵本・ビデオ等 題材例：『おじいさんとねずみのおはなし』等	伝統的な言語文化	(7) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 【俳句を作ろう】 代表的な俳句を音読し、五七五の17音で設定されていることを知る。 俳句には季節があることを知り、どの語句からわかるかを例を読みながら考える。 実際に俳句を作り、作った理由を含めてお互い発表をする。	(7) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 【短歌を作ろう】 代表的な短歌を音読した後に詠まれている季節がいつごろの言葉から分かるかをまとめる。分からない場合は図書館やICT機器で調べる。 五七五七七の三十一音で設定されていることを知る。 自分の好きな短歌を選び暗唱する。その際に選んだ理由やどんなことに気をつけて(情景や言葉の意味)詠んだかを発表をする。	伝統的な言語文化	(7) 生活に身近なことわざや慣用語などを知り、使うこと。 【ことわざカルタ/慣用語カルタ】 (高1段階/知枝/イ(イ)に続く) ことわざ(慣用語)カルタを使って調べた単語を使って、日常生活で使えそうな例文を考え発表する。	(7) 親しみやすい古文などの文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 【昔の言葉を鑑賞しよう】 古文や百人一首の朗読、狂言などを鑑賞する(『1にほんごてあそび』NHK for School)	
伝統的な言語文化	(4) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。 【表現しよう①】 絵本に使われている台詞で声や言葉を使った遊びを行い、言葉の響きやリズムを体感する。(呼びかけに対する応答遊びや擬声語や擬態語を使った音まね・声まね遊び等) 題材例：『あなは だあれ』等 ◎大型絵本・紙芝居・ペープサート・仕掛け絵本・絵本・ビデオ等 【いっしょにあそぼう】 さまざまな感触や教員との関わりで、身振りや表情などで表出する。 例：「きゅうりができた」では、歌詞の「ずりずり」「トントン」など 【平仮名のマッピングをしよう】 教員の言葉を聞きながら、友達と顔と平仮名カードのマッピングをする。	(4) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。 【表現しよう②】 わらべ歌や教師の読み聞かせを見たり聞いたりした後に、繰り返しのある台詞や特徴的な歌詞の一部を取り上げ、台詞の響きや言葉のリズムを感じながらその言葉に合わせた動作を全身で表現する。 ◎大型絵本・紙芝居・ペープサート・仕掛け絵本・絵本・ビデオ等 題材例：『おきこ だいこん』	(4) 出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。 【文を書こう】 身近な事柄を表す絵や活動の様子を見たり、文部ごとに区切ったカードを並び替えて文を作る。 (慣れてきたら実際に自分で書く活動を行う。) 作った文をみんなに見せて発表し、様々な表現の仕方があることに気付く。 例：『絵日記をかこう』等	伝統的な言語文化	(4) 挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。 【手紙を書こう(お礼状)(年賀状)(挨拶状)(案内状)】 文のはじめの四季のあいさつについて知る。 例文などを提示し、丁寧な言葉で書かれていることや文末が「です」「ます」になっていることに気付けるようする。 実際に手紙を書き、丁寧な言葉でかけているか、伝わりやすいかを発表しあう。	(4) 生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。 【ことわざを知ろう】 様々なことわざの例を提示し、自分の生活経験の中から体験したことわざを選び友だちを共有したり自分への教訓としたりして言葉のおもしろさに気付くようする。 ことわざの中には現代の人権感覚からしてそぐわないものがあるため、取り上げ方には留意する。	伝統的な言語文化	(4) 生活の中で使われる慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。 【慣用語を使ったお話づくり】 複数の慣用語カードの中から、お題の場面絵に対して適切な表現のカードを選び、文章を作って発表する。		
書写	(9) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ① いろいろな筆記用具に触れ、書くことを知る。	(9) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ① いろいろな筆記用具を用いて、書くことに親しむこと。	(9) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ② 目的に合った筆記用具を選び、書くこと。	書写	(9) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ② 姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。	書写	(9) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ② 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。	書写	(9) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ② 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書くこと。	
学習内容	【いろいろな筆記具で書いてみよう】 身近な筆記具(クレヨン、水性/油性ペン、チョーク、筆、はけ等)を使ってホワイトボードや大きな画用紙に自由に書く。 くだけたものや動物等にいろいろな筆記具を使って自由に塗り絵をする。 【線を書いてみよう】 キャラクターの教材を使って、手元に注目しながら線を書く。	【書いてみよう①～④を必ずみる】 身近な筆記具(クレヨン、水性/油性ペン、チョーク、筆、はけ等)を使って、自分の名前・直線・波線をなぞったり点線をなぞったりする。	【どちらがいい?】 ホワイトボードに大きな字(イラストや写真)と小さな字(イラストや写真)を提示し、どれが読みやすいか選ぶ。反対に、A4サイズのプリントを一人ずつ配り、同じ活動をする。その中で、書く物(小さいプリントなのか大きなホワイトボードなのか)や読む相手(一人なのか大勢なのか)によって文字の大きさが異なることに気付けるようにする。筆記具でも同じように問いかけ、目的に合った筆記具が選べるようになる。	学習内容	【書写】 ひらがな、カタカナ、漢字を筆順を意識して書き写す。 【漢字テスト】 1人1人の実態に応じた漢字テストを行う 満点を取れたら次回から次のプリントに進む 漢字の部首を指定し、その部首を使った漢字を何個書けるか対決をする 【漢字テスト・電話⑧】 1人1人の実態に応じた漢字テストを行う 自分で丸付けを行い、満点を取れたら次のプリントに進む	【書写】 ひらがな、カタカナ、漢字を筆順を意識して書き写す。 【漢字テスト】 文字の大きさを整えて書くことが身につくように他の書く題材や日常場面と関連付けて指導する。 文字が書くことが困難な生徒にはICT機器を効果的に使う。	学習内容	【自己紹介】 下書きした自己紹介文を丁寧に清書する 【きれいに書こう】 自分の名前や学校名などを2,3枚丁寧に書き、どれが一番きれいに書けたかを見比べる。	学習内容	【文字の大きさを意識しよう】 半紙に小さい文字、枠をはみ出した文章など、文字の大きさとして不適切な例を見せ、書く場所(物)に応じて適切な文字の大きさがあることを意識する。 様々な大きさ、長さの枠に合わせてお題の単語を書く。(枠の中に納まるように単語数分の○を書いて大きさを捉えやすくする。)
書写	① 筆記用具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知る。	① 筆記用具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢を理解して、写し書きやなぞり書きなど、書写の基本を身に付けること。	① 姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	書写	① 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	書写	① 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	書写	① 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。	
学習内容	【いろいろな筆記具で書いてみよう】 ②の学習内容を進めていく中で、正しい筆記具の持ち方や書く際の姿勢を知る。	【書いてみよう①～④を必ずみる】 ②の学習内容を進めていく中で、筆記具の正しい持ち方や正しい姿勢について継続的に指導を行う。 様々な筆記具を使い、いろいろな線の運筆や始点と終点を選んで書く。	【どちらがいい?】 ②の学習内容を進めていく中で、書く時の正しい姿勢や筆記具の持ち方を写真やイラスト等で示し、継続的に指導を行う。 【ひらがなをかこう/カタカナをかこう】 一文字ずつ目目で区切った見本を見ながら、文字の大きさや形に注目してのりもや食べ物など、身近な言葉を書く。	学習内容	【書写】 なぞり書き 「はらい」や「はね」などに注意して文字を書く学習 文字の大きさに注意して書く学習	【書写】 なぞり書き 「はらい」や「はね」などに注意して文字を書く学習 文字の大きさに注意して書く学習	学習内容	【いろいろな筆記具を使おう】 紙、布、ビニール、木片などのいろいろな素材に様々な筆記具で書いてみて、どの素材にはどの筆記具が適切かを考える。 履歴書など、場面に応じた正しい筆記具の選択とその理由を知る。		
読書	(4) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。 【絵本を見よう】 身近な人や動物、繰り返しの言葉や効果音が使われている絵本を見たり聞いたりする。 ◎大型絵本・仕掛け絵本・紙芝居・ペープサート・絵本・ビデオ等 『いろいろなサンドイッチ』『いろいろなイチゴ』『へんしんトンネル』等	(4) 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。 【探してみよう】 日常生活の中でよく目にする物を題材にし、絵本や図鑑、掛軸、写真などの中から探して見つける。教師は取り扱う題材(標識やマーク)に添えられている振り仮名に児童が注目できるように促す。 題材例：『身近な標識を写真の中から探そう!』	(4) 読み聞かせなどに親しむ、いろいろな絵本や図鑑があることを知る。 【図書コーナーについてみよう!】 図書コーナーへ行き、図書には図鑑や絵本、物語など様々な種類があることを知る。 これまでの読み聞かせて見た本や、自分が興味のある図書等を実際に借りる体験をする。	読書	(4) 読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを感じる詩や紀行文などがあることを知る。 【図書コーナーの利用①】 実際に図書コーナーに行き、配架の説明をし、種類ごとに図書が分類されていることに気付くようにする。 実際に本を読む時間を設定し、読んだ内容を発表する。	(4) 幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知る。 【図書コーナーの利用②】 「自然科学」「芸術」など分野ごとに分かれている本棚から自分が興味のある本を探す。 日本十進分類法の中から各教科等の授業で扱う項目について知る。	読書	(4) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることや役に立つことに気付くこと。 【図書を借りよう】 図書室に行き好きな本を読む。 読んだ本の感想(知ったこと、分かったことなど)を書く。 調べたことをプリントにまとめて発表する。	(4) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることや役に立つことに気付くこと。 【本で調べよう】 生き物やオリンピック(パラリンピック)などのテーマに沿って図書室で調べ物をする。	

国語(聞くこと・話すこと) 学習段階表

思考力・判断力・表現力等

(1)

A 聞くこと・話すこと

小学部			中学部			高等部				
項目	1段階 内容	2段階 内容	項目	1段階 内容	2段階 内容	項目	1段階 内容	2段階 内容		
話題の設定	ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。	話題の設定			話題の設定				
学習内容	【お話の世界へようこそ】 絵本、パネルシアター、ペープサート、エプロンシアター、歌絵本、大型絵本、紙芝居などを使って教師の話や読み聞かせを見たり聞いたりする。その中で、繰り返し出てくるセリフと一緒に発してみたり、身振りで表現したりする。	【振り返ろう】 活動した様子を振り返りやすいように写真などを手掛かりに日や振り返り、経験したこと(授業や休み時間)を思い返す。そなから、語句などから事柄を思い浮かべる。	学習内容			学習内容				
内容の把握	イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。	内容の把握	ア 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。	イ 身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。	内容の把握	ア 社会の中で関わる人の話などを、話し手が伝えたいことの中に注意して聞き、話の内容を捉えること。	イ 社会の中で関わる人の話などについて、話し手の目的や自分が聞きたいことの内容を捉えること。		
学習内容	【これなあに?】 絵本、パネルシアター、ペープサートなどを使って、クイズ(マッチングや2択形式のクイズ)に答える。教師からの話し掛けを受け止め、音声で模倣をしたり、簡単な表現をしたりすることができる。 【いっしょにあそぼう】 - 教員との繰り返し関わりや言葉かけに気付き、身振りや表情などで反応する。 【どまごちの名前】 - ともだちの名前と教員の指示を聞いて、その人の写真カードをとる。 【どこにある?】 - 教員と一緒に写真や色カードに名称があることを確認し、言葉でのイメージを膨らませる。教室内の場所の理解には、写真カードと言葉を頼りにしながら向かうことに繰り返し取り組み、音声言語と指さしのみで向かえるようにする。	【話を聞いてやってみよう】 決められた人に、指定された物を渡す聞き取りゲームなどを行う。3語から4語で構成する文を聞き取って行動するゲームなどを行う。 【ボールどこかな】 - 教員からの説明を聞き、ボールがある方向に手を伸ばして受け取る。難しいときにはボールの中の鈴の音を頼りに探す。	【どんなストーリー?】 絵本の読み聞かせなどを聞いた後に、教員からの質問などに答えることを通して、出来事など話の大体を聞き取る。	学習内容	【予定を確認しよう】 - 明日の持ち物や予定を自ら連絡帳等にメモをし、家庭で翌日の準備を行う。(実施に応じた指示の内容で行う。)	【自己主張】 - 教員が2人で話し合っている場面を見てメモを取る - 2グループに分かれてテーマに沿って話し合いを行う - 教員が意見と理由を話すのを聞いて、整理しながら聞き取る意見に対して自分の意見を〇×で表す	学習内容	テレビ番組の会話を聞く(敬語の種類・声色に注意する) - どのような敬語が使われているか聞き取り、書き出す 【スピーチをしよう~要点を捉えよう~】 - スピーチを聞き、聞いた後に話の内容を周囲の人と話し合いながら要点を捉える。	【道路報告会をしよう~知りた情報を考えよう~】 - 自分の実習内容を振り返りながら、友だちの実習内容で聞きたいことを明確にする。	
内容の検討	ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	ウ 体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。	内容の検討	イ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。	イ 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。	内容の検討	イ 目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	イ 目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を比較したり分類して、伝え合う内容を検討すること。		
学習内容	【伝えてみよう】 - 1日を振り返って楽しかった出来事や、明日やりたいことを手掛かりを用いて思い浮かべ、写真やイラストなどを指さして伝えたり、簡単な言葉で表現しようとする。 【ひらがなと物の名前を一致させよう】 - 教員の読み聞かせに応じて、音声を模倣したり、文字を読んでカードを選んだりする。できた時や、終わったことを自分なりの手段で相手に伝えようとする。	【伝えよう】 - 映像や写真などを手掛かりに、自分が伝えたいことを思い浮かべ、自分の知っている言葉に当てはめようとして、表そうとして、思いを伝えようとする。自分の伝えたいことを表現するだけでなく、相手の考えも聞こうとする。	【振り返って伝えよう】 - 絵や写真などを手掛かりに、経験したことを振り返る。伝えたいことを、言葉カードや絵カードなどを選択することを通すなどして、伝えたいことを伝えようとする。	学習内容	【楽しかった思い出「話し合い活動」】 - 経験した思い出の中で一番楽しかったことを理由をつけて相手に伝えたり自分の一番やりたな理由をつけて友だちと話し合う。 - 長期休みを振り返り、SWIHIにあてはめ、発表する原稿を作る。	【電話/遅刻の連絡】 - 実習中の遅刻の連絡の練習をする - 定型文に沿って文章を考える - 話し方に気をつけて実際に電話をする - 相手に伝わる丁寧な話し方を意識する 【電話を利用しよう】 - 帰宅報告の定型文を作成する - グループ練習 - 内線を使用して通話練習 - 遅刻連絡の練習を行う - 先生役・生徒役・見学者に分かれて練習を行う - 先生がいなかった場合の練習を行う - 遅刻連絡の練習を配役を分けて行う → 顔の見えない状況で練習する - 内線をしようし遅刻連絡をする - 内線電話を使用して欠席連絡を行う	【電話/遅刻の連絡】 - 実習中の遅刻の連絡の練習をする - 定型文に沿って文章を考える - 話し方に気をつけて実際に電話をする	学習内容	【道路報告会をしよう~話題を決めよう~】 - ワークシート(前回)の面接を再現("生徒と先生"のあと"生徒と生徒"で実践をする) - 常態の会話を形態に治す 【スピーチをしよう~議題を決めよう~】 - 自分や相手に興味・関心を持っていることを基に、スピーチの全体テーマを決める。	【道路報告会をしよう~議題を決めよう~】 - 場面や状況を考慮した話題を決め、伝え合う内容を決める。
構成の検討		ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い浮かべ、考えたりすること。	構成の検討	ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。	ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。	構成の検討	ウ 話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	ウ 話の内容が明確になるように、話の構成を考えること。		
学習内容		【カードで話そう】 - 通足や夏休みなど、自分が経験した時の気持ちに当てはまる言葉カードを選んだり、選んだ言葉カードを分かりやすい順序で並べたりする。	学習内容	【自己紹介をしよう】 - ワークシートで相手に伝わる話し方の確認をする - 話の中心が明確になるように構成を考える - 1人ずつ自己紹介をする - 他者の自己紹介を聞いて、一言メッセージを書く	【自己主張】 - 同僚と話さずポイントワークシートに穴埋めを行う - ある場面での自分の意見と理由を考え文章で書く - 会話の文章を聞き、最後の空欄で話す言葉を自分の言葉で考えて書く 【スピーチ】 - 「お伝と伝じろう~どうしてそう思ったの?~」を見る - 穴埋め形式のプリントに、自分の好きな遊びについての原稿を埋めていく	学習内容	【スピーチをしよう~原稿を書こう~】 - 聞き手に分かりやすい内容構成を意識し、スピーチ原稿を作る。	【道路報告会をしよう~原稿を書こう~】 - 事実と感想、意見を区別したりしながら、自分の立場や結論などが明確になるような原稿を作る。		
表現	エ 挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること。	エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。	表現	エ 自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で行うこと。	エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気をつけて話し方で行うこと。必要なら話し方を工夫したりすること。	表現	エ 相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。	エ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。		
学習内容	【劇あそびをしよう】 物語を読み、一場面を取り上げて、登場人物としてセリフを言うことを通して、言葉の表現をする。	【電話で予約しよう】 - 相手への伝わりやすさを考えて、電話でレストランの予約をすることを通して、話すことの基礎を学ぶ。		学習内容	【自己紹介をしよう】 - ワークシートで相手に伝わる話し方の確認をする - 1人ずつ自己紹介をする - 他者の自己紹介を聞いて、一言メッセージを書く 【敬語をしよう】 - 普段使っている敬語を思い出し、なぜ使うのか考える - 敬語は「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」の3つの要素から成り立っていることを知る 【1分間で自己紹介をしよう】 - 自己紹介の内容を考え、原稿を作る - 相手に伝わる声の大きさ、話し方で発表する 【漢字テスト・電話】 - 電話のルール8の確認を行う - iPadを使い、指定の本を持ってくよう電話で受け答えを行う - 内線を使用して遅刻の連絡の練習を行う	【電話/遅刻の連絡】 - 実習中の遅刻の連絡の練習をする - 定型文に沿って文章を考える - 話し方に気をつけて実際に電話をする 【敬語】 - ある場面の会話の間違った言葉遣いを敬語に直す - 実習現場で使う言葉を敬語に置き換える	学習内容	【折角】 - 名前の頭文字を使った折角を作り、発表する 【スピーチをしよう~スピーチに備えよう~】 - 相手によく伝わる工夫(声の出し方、視線など)をスピーチ原稿にメモをする。	【道路報告会をしよう~発表準備をしよう~】 - 実習先での活動がより伝わるように、実演を入れるのか、写真や映像を見せるのかを考え準備し、発表を工夫する。	
表現		オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気をつけること。	表現	オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気をつけること。	オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気をつけること。	表現				
学習内容		【お話しコンテスト】 正しい姿勢、明瞭な発音、距離や場面に応じた声の大きさを考えてお話しコンテストを行い、児童同士が感想を言い合い、適切な話し方を身に付ける。	学習内容			学習内容				
話し合い		カ 相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。	話し合い	オ 相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝えたい、考えをもつこと。	オ 物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。	話し合い	オ 目的や進め方を確認し、可成りなどの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。		
学習内容		【スピーチしよう】 相手のスピーチを聞いて、感想を述べたり、相手の話を受け止めたりする。	学習内容	【電話で話そう】 - 教員が電話の見本を見せ、分かったことを話す - 実習先への電話を実際に練習する - グループに分かれ、お題に沿って電話の会話をする 【ことわざカルタ/辞書を引く】 - ことわざの意味調べを辞書で行う - 全体に発表する	【お楽しみ会の話し合いをしよう】 - 「話し方(はじめ・中・おわり)」や「聞き方」「話し合いのルール」など話し合いの基本を実態に合わせて視覚支援などで意識できるようにする。	学習内容	【スピーチをしよう~よりよいスピーチとは~】 - クラス全体のスピーチ発表を振り返り、互いのスピーチで分かったことや考えたことを司会者発言者を決め、話し合いを行う。	【道路報告会をしよう~よりよい報告会とは~】 - 道路報告会を実施した後に、その内容を踏まえた実習の振り返りをクラスで話し合う。		

項目	小学部			項目	中学部			項目	高等部		
	1段階 内容	2段階 内容	3段階 内容		1段階 内容	2段階 内容	1段階 内容		2段階 内容		
題材の設定/情報の収集	ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	ア 身近に経験したことについて、(経験したことのうち身近なことについて)写真などを手がかりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	ア 身近に見聞きたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。	ア 見聞きたりや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。	ア 相手や目的を意識して、見聞きたりや経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、見聞きたりや経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。			
学習内容	【自分の好きなことを伝えよう】 -2つのカードの中から好きなカードを1つ選び指さしや教員にカードを渡して伝える。 -指さしや動作等で表現し、相手に伝える経験をさせる。	【1日を振り返ろう】 -1日の活動を写真やイラストを見ながら振り返り、楽しかった写真やイラストを選ぶ。 -前日や当日の振り返りを行い、経験したことを想起できるようにする。 【様々な物に名前があることを知ろう】 -教室に掲示してある身近な文字カードについて、渡された文字カードを順番に並べる。	【日記を書こう】 -複数の写真の中から書こうとしている文に関連のある写真を選び、行った活動内容や感想をカードに単語で書いていく。	【白話を書こう】 -身近な生活の中で自分が行ったことを見聞きたり出来事の中から伝えたい事柄を決める。 -伝えたい事柄について、どのようなことに取り組んだのか、どのような気持ちだったのか等、書くために必要な事柄をノートやカードにまとめる。	【手紙・暑中見舞い・年賀状を書こう】 -手紙・暑中見舞い・年賀状を見てどのような物かを知る。 -誰に、どのような目的で送るかを決める。 -伝えたい事柄について、どのようなことに取り組んだのか、どのような気持ちだったのか等、書くために必要な事柄をノートやカードにまとめる。 -文作読み合い感想や受け取った時の気持ちを発表し合う	【読書カードを書こう】(教育出版 中学国語) -読んだ本の記録を取り、読んだ期間、書名、著作者、内容、感想などについて読書カードにまとめる。まとめた読書カードは仲間にも本を薦める際に、使用する。	【読書カードを書こう】(教育出版 中学国語) -読んだ本の記録を取り、読んだ期間、書名、著作者、内容、好きなフレーズ、感想、好きなフレーズ、同じ著者の作品などについて読書カードにまとめる。まとめた読書カードは仲間にも本を薦める際に、使用する。	【読書カードを書こう】(教育出版 中学国語) -読んだ本の記録を取り、読んだ期間、書名、著作者、内容、好きなフレーズ、感想、好きなフレーズ、同じ著者の作品などについて読書カードにまとめる。まとめた読書カードは仲間にも本を薦める際に、使用する。			
内容の検討/構成の検討			イ 見聞きたり、経験したりしたことから、伝えたい順序を考えること。	イ 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 書く内容の中心を決め、自分の考えと理由などとの関係を明確にして、文章の構成を考えること。	イ 書く内容の中心を決め、自分の考えと理由などとの関係を明確にして、文章の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考えること。				
学習内容			【文を並び変えよう】 -自分の1日の流れを振り返り、「始め-中-終わり」の構成に沿って文とまとまりの並び変えをする。	【書く順序をしよう】 -文には、「始め-中-終わり」などの構成があることを伝える。 -一つ事柄をいくつかの場面に分けた写真を並べ、1枚ごとに短い文章で表していく。 -順番に沿って文章をつなげていく。	【作文を書こう】 -ビデオ、写真、日記などを参考に実際の活動を思い出し、書く内容の中心を決める。 -「いつ」「どこで」「だれか」「なにを」「どうした」に気を付けて文を書いていく。	【私の取り組み】 -委員会活動、部活動、係活動など継続的な取り組みを題材に文章を書く。過去・現在・未来について表書き出し、出来事の時間的所在を明確にする。	【現場実習の体験記を書く】 -現場実習の体験記を書く。現場実習に行く前の自分、実習期間中の自分、実習後の自分について表書き出し、出来事の時間的所在や気持ちの変化を明確にする。				
記述	イ 文字に興味をもち書こうとすること。	イ 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。	ウ 見聞きたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。	ウ 文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。	ウ 事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするだけでなく、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。				
学習内容	【文字に触れよう】 -自分の名前と友達の名前の書かれたハレハレを見比べて、文字の違いを知る。 -絵本を文字をたどりながら読む。 -文字に触れる機会を増やして、文字に興味を持てるようにする。 【書いてみよう】 -教員の書く様子を見ながら、鉛筆、クレヨン、ペンなど様々な筆記具を使用して自由に書き、書くことで表現できるように気づく。 【ひらがなをよもう】 -教員が読むイラストの名前を聞いてから、ひらがなチップを並べてイラストの名前を完成させる。 【線を書いてみよう】 -教員と一緒にペンを持ち、指さしを見たりしながら、ペンを握って書く、枠の溝にペンを入れて書く等する。	【身近なものの単語を知ろう】 -自分の名前や身近なものの単語カードを見て文字を組み合わせてわかることを知る。 -単語カードとイラストのマッチングを行う。 【なぞってみよう】 -正しい筆記具の持ち方で直線や波線、自分の名前のなぞり書きをする。	【文を書いて伝えよう】 -教員の問いかけに対して、簡単な語句や短い文で伝える。 -前に書いた文を見ながら振り返り、文を書き残すことでその時に感じたことを思い返すことができることを知る。	【文を書いて伝えよう】 -一つ事柄をいくつかの場面に分けた写真を並べ、1枚ごとに短い文章で表していく。 -一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考え文章をつなげていく。	【思ったことを感じたことを書いてみよう】 -学級や学校で掲示されている新聞記事について話題にする -興味を持った話題を取り上げ、自分の考えを書き出す。 -取り上げた話題と、自分の考えを区別しながらまとめていく。このとき、文末表現に気を付け明確に区別していく。	【芸術作品の鑑賞文を書こう】(教育出版 中学国語) -芸術作品(絵画など)を見て、心に残ったことを文にする。なぜその作品が心に残ったのか「それは、～だからです。」のように根拠を表す文を入れて書く。	【生徒会選挙の推薦文を書こう】 -クラスメイトが生徒会選挙に立候補し、応援演説を頼まれたという設定で、推薦する根拠を含む推薦文を書く。事実と自分の意見(思い)を区別して書くようにする。				
記述						エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。				
学習内容						【グラフの分析をしよう】 -「読書カード」、「私の取り組み」、「芸術作品の鑑賞文」など書いた文章を友達と読み合い、互いに交流する。文章や文の構成に注目する。	【グラフの分析をしよう】 -「読書カード」、「私の取り組み」、「芸術作品の鑑賞文」など書いた文章を友達と読み合い、互いに交流する。文章や文の構成に注目する。				
推敲			エ 書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。	エ 自分が書いたものを読み返し、間違いを正すこと。	エ 文章を読み返す習慣を身に付け、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりすること。	エ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。	エ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。				
学習内容			【間違いを探そう】 -いくつかの間違いのある文を読み、文の順序や長音、拗音、促音、撥音の表記などを意識しながら、間違いを正しいものに書き直す。	【伝わりやすい文にしよう】 -正しい文章を読む。 -自分で書いたものを読み返す。 -設定した題材、事柄の順序、語と語との続き方、長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方などを意識しながら間違いに気付いて正す。	【正しい文章にしよう】 -自分で書いたものを一文一文丁寧に読み返す。 -「語と語との続き方を確かめ」とともに、設定した題材、事柄の順序、語と語との続き方、長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方などを意識しながら間違いに気付いて正す。	【文章全体の構成を確認する】 -書いた文章の場面や話題ごとに色分けして線を引く。時間が前後していないか、接続詞は不自然でないかなどチェックリストに基づいて確認する。					
共有			オ 友達が書いたものに興味をもって聞くこと。 文などに対して感じたことを伝えること。	オ 文章に対する感想をもち、伝え合うこと。	オ 文章に対する感想を伝え合い、内容や表現のよいところを見付けること。	オ 文章全体の構成が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	オ 文章全体の構成が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。				
学習内容			【発表し合おう】 -友達の書いたものを見たり、感想の発表を聞いて、違う書き方や考え方があることを知る。 -同じ内容やテーマで感想を書き、友達の書いたものに興味を持てるようにする。	【感想を伝えよう】 -順序の分かりやすさ、語と語との続き方など、どのような部分を観点として聞くかを説明する。 -発表を行う。 -感想を伝え合い、感想を受けたり、友達の文章と比較したりすることを通して、文章を書いた過程を振り返ることができるようになる	【良かったところを見つけよう】 -文章でのいい部分の例を発表する -発表し合い、良かったところをワークシートにまとめる -まとめたことを、お互いに発表する。	【文章を客観的に見る】 -文章を書く時のポイントを一覧表にして配り、自分の書いた文章の良いところを見つける。	【文章を読み合う】 -書いた文章を友達と交換し、友達に自分の文章を読んだ感想を聞く。				

思考力，判断力，表現力等

(3)

項目	小学部			中学部			高等部							
	1段階 内容	2段階 内容	3段階 内容	1段階 内容	2段階 内容	1段階 内容	2段階 内容							
構造と内容の把握	ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。 【みてみよう】 絵本や映像の中の登場人物を教員が指差し、名前や行動を伝える。 仕掛け絵本などで、自分からめくったり、探したりする。 『コロちゃんはどこ？』『たまごのえほん』『ポケット』（仕掛け絵本） 『ノンタン』『こんにちは』（絵本）等	ア 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。 【主人公になろう】 絵本や映像を見ながら、登場人物のお面などを付けてなりきったり、動作などを真似してみたりする。 『こんにちは』：くまさんになりきって、友達や教員に「こんにちは」とあいさつをする。 『べんぎんたいそう』：ベンギンになりきって深呼吸したり、身体を動かしたりする。 他『だるまさんが』『できるかな？』等	ア 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。 【どんな場面？どんな気持ち？】 話の流れや起承転結が分かりやすく、登場人物の気持ちや行動が描かれている絵本を見て、挿絵の場面を真似したり、特徴的な場面での主人公の心情を絵カードで選んだり、表現したりする。 『どうぞのすず』『ねずみくんのチョコッキ』『おおきくと七ひきのこやき』等	ア 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。 【日本をたびして】国語文や小説や2冊より 【物語文を読もう】 本文を読んでから「北海道」「金閣寺」「白川郷」などの写真を提示し、「この文章に合う写真はどれですか」などの発問し、本文と情景が合っている写真を答える。 想像した通りだったことや、想像と違った所などを発表しあう。	ア 様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。 【物語文を読もう】 アイスプラネットの物語文を読み、登場人物の気持ちや考えを伝える。	ア 登場人物の行動や心情などについて、叙述を基に捉えること。 【カレライス（光村 国語 6年）】 主人公の心情がお父さんとの関わりでどのように揺れ動いていったか考える。	ア 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 【物語文を読もう】 アイスプラネットを輪読・くうちゃんの気持ちの変化を考える 【字のない葉書（光村 国語 中2）】 文章中の人物の言動の意味を考え、人柄や心情を捉える。	イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。 【みつけよう、表現しよう】 絵本や映像を見て、問われたものまたは文の表現に当てはまるものを指さしたり、注目したりして表現する。 『ノンタン』→ノンタンを指差す 「雷ゴロゴロ」→雷の絵や、空を指差す、耳をふさぐなど	イ 教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大體を捉えること。 【このあとどうなる？】 『へんしんトンネル』：ペープサートで表現したり、カードの表に「はじめの姿」、裏に「変身後の姿」が描かれたカードをめくったりする。 『はらぺこあおむし』：登場するものの絵カードやめいぐるみなどを用意する。りんごをあおむしに食べさせて「はじめはりんごを食べました」、「次は…」「最後は…」と流れを表現する。	イ 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など大體の内容を捉えること。 【どんな物語？】 話の流れや起承転結が分かりやすい絵本を見て、それと対応したカードを選んだり行動したりすること。 『桃太郎』『三びきのこぶた』『おおきなかぶ』等 『サンドイッチサンドイッチ』：絵本に出てくる素材のカードを用意し、絵本の流れに沿ってカードを重ね、サンドイッチを作る。	イ 語や語句の意味をもとに時間的な順序や事柄の順序など内容の大體を捉えること。 【時間や順序の言葉を見つけよう！】 簡単な物語の文章の中から、時間や順序を表す語や語句を見つけ、内容を捉える。 【文章読解】 簡単な説明文を読み取ることができる。	イ 語と語や文と文との関係をもとに、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大體を捉えること。 【変化を見つけよう！】 簡単な物語の文章の中から、時間や順序を表す語や語句、登場人物の気持ちの変化を見つけ、内容を捉える。	イ 段階相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 【時計の時間と心の時間（光村 国語 6年）】 筆者の主張がなにか、どこで述べられているかを考える。 書かれている事例と、それを受けて述べられている主張を読み取る。	イ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえる。文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 【シカの「落ち穂拾い」（光村 国語 中1）】 文章中の事実と筆者の意見、自分の考えを述べるための工夫などを読み取る。
構造と内容の把握	ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。 【ゴールをめざそう】 教室や廊下で、示された矢印「↑→←↓」に従って進み、ゴールまで向かう。教員が○×を切り替えて表示し、「○」の時は進み、「×」の時は止まる。 【けん・けん・ぱ】 右足、左足、両足の足形（右手、左手、両手の手形）に合わせてけんけんぱで進む。	ウ 日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。 【マークの一致】 教科やスケジュールのシンボルマーク、トイレマーク、避難マークなどの表示と、それらに当てはまる行動の動画やイラスト、写真を選んだり、実際に行動したりすること。 【信号機を見て動こう】 信号機の色をよく見て歩いたり、止まったりする。	ウ 日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。 【文を読んで行動しよう】 学校、公共交通機関、公共施設などのきまりの文を読み、対応した行動をする。異なる行動をした場合の危険を、動画を見たり、実際にやってみたりして学ぶ。 【この行動、どんな/どこのきまり？】 動画やイラスト、写真を見て、当てはまる文や看板、場所カードを選ぶ。	ウ 日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。 【読み取ろう】 スケジュール表を見て、次の授業を確認する。 【組み立てよう】 簡単な説明文を読み、具体物を組み立てる。 文字を合わせよう 名前が書かれた絵カードを見て、その文字と同じカードを合わせる。	ウ 日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。 【読み取ろう】 スケジュール表を見て、次の授業、活動場所、持ち物を確認する。 【組み立てよう】 説明文を読み、具体物を組み立てる。 【正しく使おう】 説明書（指示書）を読み、電子機器をその通りに使用する。	ウ 登場人物の心情や情景について、場面と結び付けて具体的に想像すること。 【大造じいさんとガン（光村 国語 5年）】 情景を読み取り、そこから登場人物の心情を想像する。 物語の場面や場面における登場人物の気持ち、見方の変化を読み取る。 【身近なアニメ、映画等（言の葉の庭など）】 情景を読み取り、そこから登場人物の心情を想像する。	ウ 人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えてりすること。 【字のない葉書（光村 国語 中2）】 父親に対する「私」の思いを捉え、自分の考えをもつ。 【走れメロス（光村 国語 中2）】 描写や会話に着目して人物像の変化を捉える。							
学習内容														
構造と内容の把握				エ 中心となる語句や文を明確にしながらかくこと。 【話の中心は？】 話や物語の中心となる語句や文に線（下線・マーカー）を引く。	エ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。 【物語文を読もう①】 アイスプラネット輪読 作者の背景を作品の共通点を知る 【生き物は円柱形（光村 国語 5年）】 各段落に書かれている大事な語や文を読み取る。 筆者の考えの進め方を捉え、要旨をまとめる。	エ 目的を意識して、文章と図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見付けること。 【シカの「落ち穂拾い」（光村 国語 中1）】 文章と図表を結び付け、筆者の主張の根拠を読み取る。								
学習内容														
考えの形成	エ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。 【次はなにかな】 めくると前ページの答えが描かれているような絵本を読み、自分からめくる意欲を促す。 『どっちのていはいってやるか？』『いないいないばあ』『どぶついろいろかくれんぼ』等 【真似してみよう】 言葉の繰り返しがある絵本や表現がしやすい絵本を読み、模倣を促す。 『だるまさんの/と』『お？かお！』『びよーん』等	エ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。 【好きな場面や言葉を表現しよう】 言葉の繰り返しがある絵本や表現がしやすい絵本を読み、好きな場面での自分からの表現を促す。 『だるまさんの/と』『11びきのねこ』『ぐりとくら』『がらがらどん』『はじめてのおつかい』等	エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。 【読んでみよう】 絵本や小学校1年生教科書に記載されている読み物などを選び、役を決めて台詞を読む。 【演じてみよう】 『三びきのこぶた』でオオカミ役かぶた役かを決めて簡単な劇を行う。等	エ 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすること。 【気づいたこと、思ったこと】 文章を読んで気づいたことや思ったことを選択肢の中から選ぶ。 文章を読んで気づいたことや思ったことを自由に記入する。 発表を行う。	オ 読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人感じ方などに違いがあることに気付くこと。 【それぞれの考え方】 文章を読んで気づいたことや思ったことを自由に記入し、ペアになって伝え合う。 相手が発した感想、感じたことを発表する。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをまとめること。 【カレライス（光村 国語 6年）】 【時計の時間と心の時間（光村 国語 6年）】 【大造じいさんとガン（光村 国語 5年）】 文章を読んで、印象に残った表現とその理由、登場人物同士の関わりの変化、登場人物の行動と心情の変化等をもとに感想や考えを書き、発表する。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 【アイスプラネット（光村 国語 中2）】 【字のない葉書（光村 国語 中2）】 【走れメロス（光村 国語 中2）】 【シカの「落ち穂拾い」（光村 国語 中1）】 文章を読んで、登場人物の考え方や生き方、筆者の考えの述べ方、図表の役割等について、自分の考えをもち、発表したり文章にまとめる。							

C 読むこと

C 読むこと